

# 新宿区立漱石山房記念館 令和3年度第1回運営学術委員会

## 議事概要

日 時：令和3年11月26日（金） 午後6時30分～午後8時30分

会 場：新宿区立漱石山房記念館 地下1階 講座室

出席者：半田昌之会長、中村廣子副会長、大木志門委員、大木真徳委員、佐藤裕子委員、  
松下浩幸委員、山岸吉弘委員、山口進委員、鈴木達也委員、吉川友子委員、鈴木靖委員、宇山幸宏委員、松澤亮委員、北見恭一委員(計14名)

欠席者：小泉栄一委員(計1名)

事務局：菊地加奈江(文化観光課長)、北村こころ(文化資源係長)、梶山かほり(文化観光課主事)、久米美弥子(文化観光課主事・学芸員)

財 団：福田義和(公益財団法人新宿未来創造財団 漱石山房記念館係長)、今野慶信(漱石山房記念館学芸員)

### 次 第

- 1 委嘱状の交付
- 2 新宿区あいさつ 文化観光課長
- 3 委員紹介 自己紹介
- 4 事務局紹介 自己紹介
- 5 会長・副会長の決定
  - ・委員の互選により半田委員を会長に、会長の指名により中村委員を副会長に選出した。
- 6 会長・副会長あいさつ
- 7 令和3年度上半期の漱石山房記念館等の事業実績について
- 8 特別展「生誕140年記念 永遠の弟子 森田草平」見学

### 議事要旨

#### ◆令和3年度上半期の漱石山房記念館等の事業実績について

#### ○動画配信に関する委員からの意見等

- ・情報発信イベントの動画配信とはどのような形をとるのか。
- ・YouTubeか、Zoom方式か。
  - ➡事務局：新宿区の公式YouTubeチャンネルで行う。会員登録は不要で、無料で誰でも視聴が可能。周知は区広報紙やチラシの配布による。

- 日頃、SNS での発信等を行っているのか。
  - ➡事務局：区の公式 SNS で、区のお知らせや情報を発信している。
- 講座は、オンラインで配信すると多くの方が観られる。
  - ➡財 団：講座等は事前申込制であり、来場者とオンライン視聴者を同じ扱いにすることは難しい。開催日当日は当選者に限り、その上で収録した動画を編集して後日配信している。  
「2月9日朗読会」について、昨年度は当日の開催が難しかったため、事前に動画を収録し、財団のYouTubeチャンネルで配信した。令和3年度については、現在のところ開催を予定しているが、2年度と同様の方式とするか、同時配信とするか検討中である。
- 現在、コロナ禍であるので、他所では Zoom 等を使用して現在進行形のものに参加するという取り組みも行われている。申し込めばメールが送られてきて記載された URL をクリックすれば参加できるという簡単なものもある。こうしたものに慣れていく人も増えてきたので、参加意識の上がるそういった発信方法も検討してはどうか。
- Zoom は参加するのがとても簡単であるし、臨場感がある。職員が館内の展示をカメラで動画撮影すれば、参加者はそれをリアルタイムで観られる。

## ○区内小中学校、児童、教諭の見学について

- 漱石山房記念館（以下、記念館という。）に行ったことのない教員も多い。早稲田地域の理解のためにも、ぜひ記念館を活用したい。子どもたちへの「漱石学」にも繋げていきたい。できれば教員にレクチャー付きで記念館を見学する研修の機会がほしい。榎町地区で小学校5、6年生の漱石暗唱コンクールも行われている。コロナ禍での子どもたちの団体見学について教えてほしい。
  - ➡財 団：先日も区内中学校から70名程の見学があった。今後も対応したいと考えるが、どのようなアプローチをすれば区内小中学校の皆さんに見学に来てもらえるか相談したい。
- 校園長会で説明してもらうのがよい。記念館の団体見学について分からない先生も多いので、当年度であれば年度当初、来年度に向けてであれば前年度中に説明していただければありがたい。
  - ➡財 団：漱石の発信に取り組んでいる鶴巻図書館と北新宿図書館には、今年度から図書館職員向けに漱石のレクチャーを始めた。そういうことも行っている。



が子ども向けの冊子を作成して各学校に配布しているが、各校とも年間スケジュールのお忙しいなか、全学校が記念館を見学するという取組みにはなっていないのが現状である。貴重なご意見をいただいたので、もう少し積極的に声掛けを行っていききたい。

- こういった話題は2年前の本委員会では全く出なかった。博物館のトレンドは大きく変わりつつあることを実感する。あるアンケートでは、開館日数的にはおしなべて2割減とあまり減ってはいない。問題は収入で、5割減っているというのが全国的な相場だと思う。これは、来館して入館料を払う人だけに博物館の情報発信をしていたのでは事業が立ち行かない時代に入りつつあるということだ。DX化も、博物館の世界に浸透していくと思われる。それを博物館の事業にどう昇華していくのかということで、館の指針もかなり変わっていくだろう。
- ぜひ、記念館の今後の運営についても、各委員から意見が出たようなオンライン、記録としてのオンデマンド、配信等についても、積極的に検討してもらいたい。本委員会は第三期の任期が始まったが、記念館が前向きに運営できるような意見を今後も出し合っていきたい。

◆特別展「生誕 140 年記念 永遠の弟子 森田草平」見学